

令和 6 年度 宮井小学校 学校評価結果について

1 学校評価について

学校評価は信頼される開かれた学校づくりをめざして、「児童がよりよい教育活動を受けること」をねらい、「学校をよりよくする」ために、学校・保護者の方々・地域の方々の協力により進めていく活動です。児童・保護者のアンケート結果や本年度の教育活動の振り返りをもとに教職員の自己評価などの学校評価を行います。学校評価を今後の学校運営や学校改善に生かし、児童や保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざして取組を進めます。

2 学校評価の活動について

学校評価の活動は、大きく次の 5 つの活動を行います。
■児童・保護者アンケート ■教職員の自己評価 ■学校関係者評価（学校評価協力委員会）
■学校評価結果を受けての今後の改善策の検討とまとめ ■学校評価結果及び今後の改善策等の公表

3 学校評価の回答数と回答率について

児 童(回答率 1 0 0 %)
保護者(回答率 8 0 %)
教職員(回答率 1 0 0 %)

4 学校評価アンケートの結果と課題、次年度への取組について

今年度の学校評価アンケート（児童・保護者・教職員）の結果を比較できるようにグラフにまとめました。「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の 4 つの領域と学校教育全般についてのご意見・ご感想、家庭教育に関するアンケート、自由記述について記載しております。

※グラフの見方につきましては、次のような表にまとめています。

グラフの見方	児童	■ そう思う ☒ だいたいそう思う ☐ あまりそう思わない ☐ 思わない
	保護者	■ よく当てはまる ☒ 当てはまる ☐ あまり当てはまらない ☐ ほとんど当てはまらない ☒ わからない
	教職員	■ よくできた ☒ だいたいできた ☐ あまりできなかった ☐ できなかった

※前年度の肯定的回答の割合、を▲で表しています。
児童 「そう思う」「だいたいそう思う」の回答の合計
保護者 「よく当てはまる」「当てはまる」の回答の合計



確かな学力の育成について

○成果

児童の回答では、設問①「分かる授業」②「基礎学力の定着」について、①約 9 7 %、②約 8 9 % の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

保護者の回答では、全ての設問について、約 9 0 % 以上の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

教職員の回答では、設問①約 8 5 %、② 1 0 0 % の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

児童の回答は、①②ともに昨年度より向上しており、教職員が日々の授業を工夫し、児童も学ぶ楽しさを感じているといえる。児童、保護者、教職員も児童の基礎学力が定着していると感じている。

○課題

設問③「表現力」については、保護者の肯定的回答が 9 5 % に対し、児童は 7 2 % で少なく、教職員は 6 9 % であった。昨年度に比べ、保護者の肯定的な回答は増えているものの、来年度もより一層の取組が求められる。

設問④「読書活動」については、保護者の肯定的回答が 9 1 % に対し、児童は 6 4 % で少なく、教職員は 6 1 % で、昨年度より肯定的な回答が増えているが、引き続き課題となっている。

設問⑤「家庭学習」については、保護者の肯定的回答が 9 5 % に対し、児童は 7 3 % で少なく、教職員は 8 4 % であった。児童については、宿題はしているが自主勉強をしていないと感じている。

児童がいる。

○次年度への取組（R 6 年度の学校評価を基に検討したこと）

- 読書については、学級文庫の利用が高く、朝の読書の時間や給食の時間、授業中など課題が早く終わった児童に学級文庫を読む機会をつくっている。絵本に親しんでいる児童も多く、「読み聞かせお話を箱」の時間を楽しみにしている。家庭での読書時間が十分にとれない傾向があるので、朝の活動など時間を決め、学校で読書の機会やきっかけをつくる必要がある。
- 学校図書館については、休み時間に学校図書館を利用する児童は少ないが、学習の中で調べたいものがあるときには利用している。図書委員会も定期的に学級ごとの図書を交換・貸し出し、学級での読書活動を進めている。多読賞の表彰では、多くの児童が表彰されている。今後さらに、読書活動がより充実するように、読書週間の設定、週末に図書を借りさせて土日に読書をする図書の貸し出し方法、図書の選定など、読書活動や図書室の利用の仕方を見直した上で工夫改善を図る。
- 「表現力」については、グループワークやペア学習の機会を増やし、1人1人が自分の意見に自信をもてるよう心がける。
- 授業中の発表については、特定の児童に限られるのではなく、すべての児童に発表の機会を確保できるような授業づくりを意識する。
- 家庭学習の課題を出す際には、児童の実態を踏まえて、児童の負担が少なくなるように工夫する。

豊かな心の育成について

○成果

設問⑥「豊かな心や人間性の育成」⑦「仲間づくり」⑩「挨拶の指導」について、児童は⑥約84%、⑦約84%、⑩約92%、保護者は⑥約88%、⑦約79%、⑩約91%、教職員は⑥約92%、⑦100%、⑩100%の肯定的回答が得られ、児童・保護者・教職員とも高い評価であった。特に、⑩の回答については、肯定的回答が多かった昨年度をさらに上回り、高い評価であった。

設問⑨「宮井校区のよさ」については、保護者の肯定的回答が97%で、教職員は約85%であった。校外学習を多く実施したことが要因の一つではないかと考える。

○課題

設問⑧「学びの生活化」については、保護者の肯定的回答が約84%、児童は約80%、教職員は約84%であった。道徳や人権学習で学んだことを生活の中で生かせるような日頃の意識付けが必要である。

設問⑨「宮井校区のよさ」について、児童の肯定的回答が約76%であり、保護者や教職員との意識の差がある。

設問⑦「仲間づくり」については、約15%の保護者が「分からない」と答えている。

○次年度への取組（R 6 年度の学校評価を基に検討したこと）

○道徳教育や人権教育の学習に加えて、学校生活全体を通しての常時指導が引き続き大切である。日々の生活の中で、児童や学級の実態を踏まえながら、授業での学びが実際の生活とリンクするような声かけや活動を増やし、学びが生活の中で生かされるようにする。

○本年度は校外学習など、地域に出た体験活動を多く取り入れてきた。この実践を踏まえ、次年度は体験学習を行う際に、児童に学習の目的を明確に伝え「ふるさと宮井のよさ」を感じられるよう配慮する。地域の人との交流をすることにより、たくさんの人に支えられていることを実感し、感謝の気持ちや思いやりある態度が育成できるような学びの場を設定する。児童の豊かな心や人間性を育成し、宮井校区や人のよさを大切にできる児童の育成を目指す。

○参観日や学年便り、個人懇談などを通して、保護者に学校の様子や児童の様子を積極的に伝えていく。

健やかな体の育成について

○成果

設問⑫「食育」について、児童は約 84%、保護者は約 87%、教職員は 100% の肯定的回答が得られ、昨年度と比べ、すべての対象において肯定的回答が増えている。

設問⑬「体力の向上」について、肯定的回答が児童は 91%、保護者は約 93% が、教職員は約 85% と非常に高い評価が得られた。これも、設問⑫同様に、昨年度と比べ、すべての対象において肯定的回答が増えている。

○課題

設問⑪「規則正しい生活」については、保護者から約 86% の肯定的回答が得られたのに対し、児童は約 63% で非常に少なく前年度より約 10% 下がっている。教職員は約 92% である。ゲームやスマホの利用時間の影響が大きい。翌日の学校生活や宿題などに影響が出るため、改善が必要である。

設問⑭「外遊びの奨励」については、児童の肯定的回答が約 77%、保護者は約 76%、教職員は約 85% である。肯定的な回答が多いとはいえないが、夏場は熱中症の危険もあり、積極的に外遊びを奨励することはできなかった。

○次年度への取組（R6年度の学校評価を基に検討したこと）

○「規則正しい生活」については、昨年度に引き続き、ゲームやスマホ等の利用時間の影響が大きい。生活についての児童の実態を把握したうえで、情報機器の家庭での利用についても指導する。

○規則正しい生活が送れていないと感じている児童が約 28% いる一方で、保護者の否定的回答は約 14% にとどまっている。規則正しい生活を送るために、小学校の段階では、保護者の協力が不可欠である。不規則な生活が健康に及ぼす影響などについて、学校で児童に知らせることが必要である。さらには、講演会などを開催し、児童とともに保護者にも参加してもらい、家庭にも協力を得ながら改善できるようにしていく。

○SNS などの利用時間削減のために、家庭での「〇〇10分間チャレンジ」「お手伝い作戦」など、児童の実態に合わせて、情報機器を使用しなくてもよい家庭時間の設定をする。さらに、児童の実態をお便りで家庭に知らせ啓発に努める。

○外遊びについて、校舎外に出る人と出ない人の二極化が見られる。外遊びの奨励に向け、一輪車やホッピング、竹馬などの道具を揃えられればいいのか。

信頼される学校について

○成果

児童の回答では、設問⑯「学校行事の工夫・改善」、⑰「安全教育、環境設備」について、⑯約 96%、⑰約 95% の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

保護者の回答では全ての設問について約 90% 以上の肯定的回答を得ており、前年度以上の非常に高い評価であった。

教職員の回答では⑮～⑲の設問全てについて約 85% 以上の肯定的回答を得ており、高い評価であった。

設問⑯⑰については、校外学習や避難訓練などを積極的に行ったことが要因と考えられる。行事ごとにPTAで連携し、協力し合い、児童の成長や学習活動に関わることができた。

○課題

設問⑮の「先生とのかかわり」については、児童の肯定的回答が約 62% であった。保護者の回答は、約 93%、教職員の回答では、100% の肯定的回答を得ている。児童との意識の差が大きいことから、困っていても相談しにくいと感じている児童が一定数いると考えられる。

○次年度への取組（R6年度の学校評価を基に検討したこと）

○児童理解は全教職員で共通理解していくことが重要であり、児童の細かい面まで見守るような態勢づくりをしていく。また、全ての児童についての情報交換をおこなう機会を増やす。(学期ごとに1回程度→月に1回程度の実施へ)

○安心できる学級・集団づくりに努め、学校全体で、児童が困ったときや不安なときには相談しやすくなるような環境を整える。

○保護者に必要な教育情報等をきめ細かく伝えていくことが、信頼される学校につながると考える。今後も、学校行事や防災・安全教育について、家庭との連携を強化しながら、情報を発信し、安全管理や環境整備などに取り組んでいく。

○学校行事の意義や必要性を確認しながら精選を図り、学習意欲を高められるような学校行事を計画・実施する。

5 学校評価協力委員会（学校関係者評価）について

■ 学校評価協力委員会（学校関係者評価）とねらいについて

宮井小学校学校評価協力委員会は、学校評議員、PTA役員、地域の学校関係者などの学校関係者により構成された学校評価協力委員が、教職員の自己評価の結果や児童・保護者のアンケート結果などについて評価等することを基本として行う学校関係者評価です。学校評価協力委員会（学校関係者評価）のねらいは、次の3点です。

- ・評価活動を通して保護者や地域住民などと互いに理解を深める。
- ・教職員による自己評価の客観性・透明性を高める。
- ・保護者や地域住民がよりよい学校づくりのプロセスに参加する仕組みをつくる。

■ 学校評価協力委員の評価結果傾向や意見等について

確かな学力の育成について

授業がわかると回答している児童の割合が高い結果が出ているが、中学校でも同様の状態が継続できるようになってほしい。そのためにも児童一人一人について理解できていない学習内容を早く見つけて対応をしてほしい。

小規模校である本校の特色を生かした学習内容や指導の工夫をしっかりと考えてほしい。学校だけでなく、PTAや地域と協力して子どもたちの楽しい学びの場を作っていくことで、子どもたちの学習意欲を高めることができるのではないかな。

タブレットは、学校でバッテリーや接続の不具合の発生や、本体が重いので家庭に持って帰りにくいということを聞くことがある。今後の改善を望みたい。

豊かな心の育成について

先生に相談しやすいと回答している児童の割合が、やや低いというのが課題である。ただ、言えなくて我慢をしているのではなく、保護者に伝えるなど、他の方法をとっていることも多い。

本校は、先生が子どもたちのことをよくわかっているし、子どもたちも先生のことをよくわかっている。子どもによっては、担任の先生に言いにくくても、他の先生に相談することもあり、本校の良いところである。

地域にいと地域によさがわかりにくく、気づいていない子どもや大人もいると思う。逆に地域外に住んでいる先生方が、宮井のよさに気づきやすい面もあると考えられ、それを伝えやすいのではないかな。

健やかな体の育成について

スマホやゲームなどの利用の仕方が、生活リズムの確立に影響を及ぼしている場合がある。子どもへの指導だけでなく、保護者に問題意識を持ってもらうために、学校ができること積極的に実施してほしい。

外遊びは、多くの子どもたちが楽しんでいる。運動が苦手な子どもたちに、運動の楽しさを感じられるような体育の授業や活動をすすめてほしい。

6 学校評価結果及び今後の改善策等の公表について

学校評価結果及び今後の改善策等につきましては、「宮小ホームページ」「PTA会合」等を通して広く公開したり、説明したりしていきます。学校評価の取組を通して、これからの宮井小学校がより「楽しい学校」「やる気のある学校」「やさしい学校」となるよう取り組んでいきたいと考えています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。